

取扱説明書

ブリーダーバルブ

SUL-A



株式会社 宮入バルブ製作所
MIYAIRI VALVE MFG. CO., LTD.

目次

	ページ
1. 概要 2
2. 製品名 2
3. 仕様範囲 2
4. 構造と特長 2
5. 運搬及び保管 3
6. 取付要領 3
7. 分解、組立要領 3
8. 使用上の注意 4
9. 増し締め要領 4
10. 点検及び保守 4
11. 保証期間 4
12. アフターサービスについて 4
13. 構造図 5

はじめに

この度は、宮入バルブの製品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。ご使用に際しては、高圧ガス保安法を遵守するほか、本取扱説明書を良くお読みになり内容を理解された上で本機器をご使用下さいますようお願い致します。また、必要に応じて利用できるよう、お読みになった後も手元に置かれることをお勧め致します。

1. 概要

本製品は、主に高圧ガス配管継手の切り離しの際などの、ガスブロー用として製作されております。

2. 製品名

品名： ブリーダーバルブ
型式： SUL-A
図面番号： B-15147

3. 使用範囲

取付前に、必ず次の仕様を確認の上ご使用ください。

(1) 使用流体	液化石油ガス、一般高圧ガス
(2) 設計圧力	2.5 MPa
(3) 設計温度	-10~120°C
(4) 耐圧試験圧力	3.75 MPa
(5) 気密試験圧力	2.75 MPa
(6) 接続仕様	R3/8Xφ10 ソケットウェルド
(7) 本体材質	SUS304

注意

これは標準仕様です。使用範囲が本仕様と異なる場合は、ご注文成約時の図面に記載されている仕様及び製品の検査成績表の内容と照合し、仕様の範囲内であることを確認した上でご使用ください。

4. 構造と特長

- (1) 本体には耐食性に優れたステンレス材を使用しております。
- (2) バルブの開閉方向は、ハンドルにも表示しておりますが、ハンドルを右回しすると閉、左回しすると開になります。
- (3) グランド部はV型パッキンを使用しておりますので、気密性に優れ、ハンドル操作力も低く、容易に操作できます。
- (4) シートパッキンは、PCTFE(“ダイフロン”)パッキンを使用したソフトタッチ方式ですので、気密性、耐久性に優れています。

5. 運搬および保管
 - (1) バルブを落とす、投げるなどの乱暴な取扱で強い衝撃を与えないでください。漏れ、故障の原因となります。
 - (2) 運搬および保管は荷姿のまま、ゴミ、ほこり、雨などがかからないようにしてください。
6. 取付要領
 - (1) 出口側の配管の際は、ソケット部の切粉、溶接スパッタ、スケール等を十分に清掃してください。
 - (2) 溶接取付は適切な技術(資格)を有する溶接施工者が、適切な溶接施工法により正しく溶接を行ってください。また、溶接を行う場合はバルブを分解するなど、バルブへの熱影響を最小とするように注意してください。(バルブの分解、組立は7項を参照ください)
 - (3) 出口側配管は、容器の膨張、収縮、地盤沈下、地震などによって無理な力を受けないように取り付けてください
7. 分解、組立要領(12項、構造図を参照ください)
 - 7.1 分解
 - (1) 弁を中間開度にして、残ガスの処理を行い、内圧が無いことを確認してください。
 - (2) 弁体に傷をつけないために、バルブを全開にしてください。
 - (3) 9.セットスクリュー、8.ハンドルの順で取り外してください。
 - (4) 6.グランドナットを外します。
 - (5) 5.パッキン押エを1.ボディから上方へ引き抜いてください。
 - (6) 2.スピンドルを反時計回りに回し、4.パッキン座、7.パッキンを上方へ抜き取ってください。
 - (7) 4.パッキン座、7.パッキンを2.スピンドルから上方へ取り外してください。
 - (8) 3.シートパッキンは2.スピンドルにカシメてありますので、交換はスピンドル組品でお願いします。
 - 7.2 組立
 - (1) 分解した部品のゴミ、錆等は十分に清掃し、有害な腐食、変形、傷等があるものは新品と交換してください。
 - (2) 2.スピンドルと3.シートパッキンの組品、7.パッキンは新品と交換してください。
 - (3) 上記の部品類は、弊社の支給する純正部品を使用してください。
 - (4) 組立は分解と逆の手順で行いますが、7.パッキンは1枚ずつ挿入してください。また、グランドパッキンの締め付けの際は弁体の位置は全開としてください。
 - (5) 4.パッキン座、7.パッキンに流体に適したグリスを少量塗布してください。
 - (6) 1.ボディと2.スピンドルのねじ勘合部に流体に適したグリスを少量塗布してください。
 - (7) 1.ボディに2.スピンドルと3.シートパッキンの組品を組み込みます。
 - (8) 1.ボディに4.パッキン座、7.パッキンを1枚ずつ、5.パッキン押エの順で挿入します。
 - (9) 2.スピンドルと3.シートパッキンの組品が全開の位置に来ていることを確認し、6.グランドナットを締めこみます。6.グランドナットを締め付ける際は2.スピンドルの開閉トルクが0.1N・mになるまで締付を行ってください。
 - (10) 2.スピンドルに8.ハンドル、9.セットスクリューの順で組み込みます。
 - (11) 組立後は検知液をグランド部に塗布して、漏れのないことを確認してください。漏洩が検知された場合は9.2項を参照ください。

8. 使用上の注意

- (1) グランド部に使用されているV型パッキンは、気密性の優れたパッキンですが、万一漏れが発生した場合は次項の増締め要領に従って、増締めを行なってください。

9. 増締め要領

9.1 増締め実施時期とグランドナットの増締め量

- (1) 日常点検などで漏洩が検知された場合は、即時実施してください。グランドナットを回す量は、1/6～1/2 回転としてください。
- (2) バルブの温度が外気温と同じ状態で運転されている場合は、1年に1回、10 月初旬に実施してください。PTFE の温度による体積変化は 23℃付近が他の温度域と比較して大きいため、平均温度が23℃を下回りPTFEの大きな収縮が起きる時期に実施すると効果的です。グランドナットを回す量は、1/6 回転としてください。
- (3) バルブの温度が 20℃以下で管理、運転されている場合は、1年に1回、任意の時期に定期的
に実施してください。パッキンのわずかな摩耗分を補います。
グランドナットを回す量は、1/6 回転以下としてください。

9.2 増締め手順

- (1) グランドナットとボディに合印を付けてから、グランドナットを弛めてください。
- (2) ハンドルを回しながら、ハンドルがやや重く感じる程度までグランドナットを締め付けてください。
(締め付け量は 9.1 項を参照ください。)
- (3) 検知液をグランド部に塗布して、漏れのないことを確認してください。

10. 点検および保守

設備の運転開始時、運転終了時および運転中に以下の様な点検を行なってください。

- (1) 外部漏れを点検し、前項のグランドナットの増締めを行なっても漏れが止まらない場合、ハンドル操作が重い場合は、グランドパッキンを新品と交換してください。
 - (2) ハンドル開閉がスムーズに行なえるか点検してください。
- その他、高圧ガス保安法の管轄下で使用されるバルブは、法規上の規定にもとづき検査を実施してください。

11. 保証期間

貴社での検収完了後 18ヶ月内または設置後 12ヶ月内のうち、いずれか早く到来する期間内において、製造上の問題に起因する故障が判明した場合には、無償修理もしくは交換を行います。

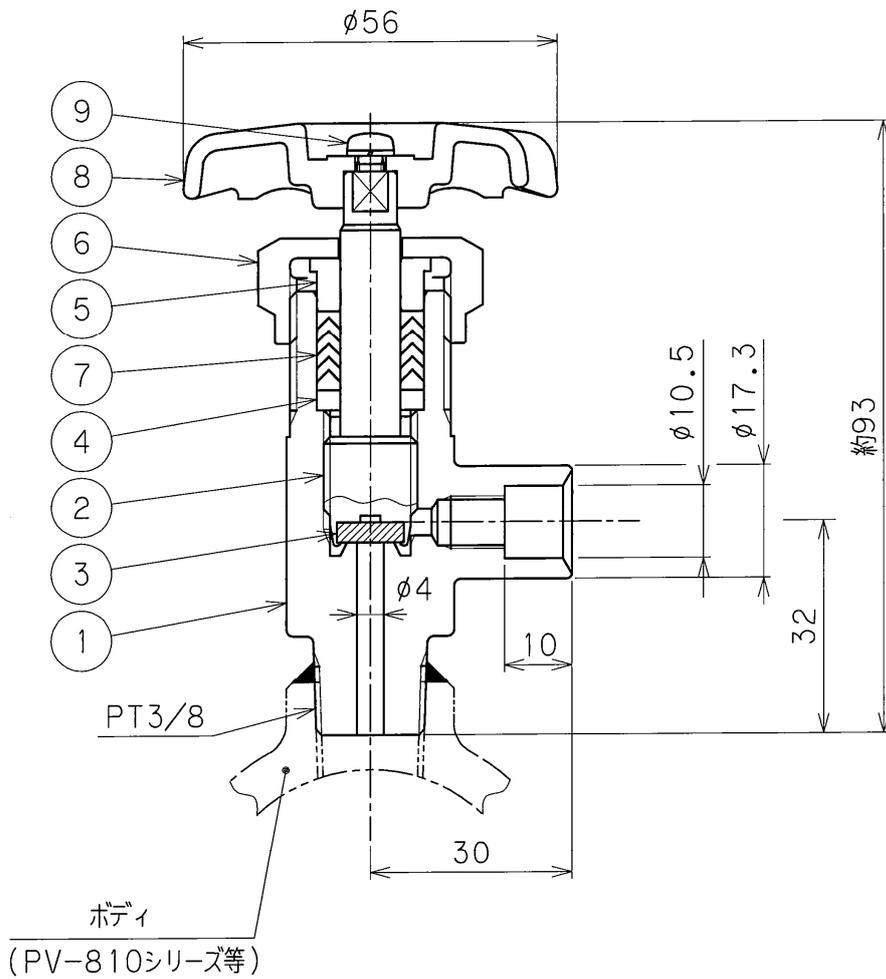
12. アフターサービスについて

- (1) 製品に異常が生じた場合
- (2) 製品の修理が必要な場合
- (3) 交換部品が必要な場合

上記のご相談は、宮入バルブ製作所各営業所へお問い合わせください。

※型式・サイズ・図面番号等をお知らせください。

12. 構造図



9	セットスクリュー	SUS304	1	
8	ハンドル	ADC12	1	
7	パッキン	PTFE	1set	P/#4360SVM
6	グランドナット	SUS304	1	
5	パッキン押エ	SUS304	1	
4	パッキン座	SUS304	1	
3	シートパッキン	PCTFE	1	
2	スピンドル	SUS304	1	HCrメッキ
1	ボディ	SUS304	1	
No.	PART NAME	MATERIAL	QTY.	REMARKS
SUBJECT				
ブリ - ダバルブ <hr/> SUL-A				

本製品についてのご質問、及び定期点検のご相談、ご依頼は下記の営業所までご連絡ください。



本 社	〒104-0061	東京都中央区銀座西 1-2	(Tel) 03-3535-5575	(Fax) 03-3567-6834
甲 府 工 場	〒400-0206	山梨県南アルプス市六科 1588	(Tel) 055-285-0111	(Fax) 055-285-7175
札幌営業所	(Tel) 011-786-1110	(Fax) 011-786-1120	大阪営業所	(Tel) 06-6541-8711 (Fax) 06-6541-8718
仙台営業所	(Tel) 022-295-4670	(Fax) 022-295-4671	九州営業所	(Tel) 093-921-0981 (Fax) 093-921-0984
東京営業所	(Tel) 03-3535-5571	(Fax) 03-3567-6834	広島出張所	(Tel) 082-426-5002 (Fax) 082-426-5003
名古屋営業所	(Tel) 052-951-3860	(Fax) 052-951-3862		